

SALOM 和歌山

IBROKHIMOVA ZULAYKHO

日本語・日本文化研修留学生 ウズベキスタン

幼稚園に通っていたころ、ウズベキスタンで日本の「おしん」というドラマが大人気になっていた。毎日私がまだお母さんとドラマの始まる時間を待ち、その日のシリーズが終わったら次のシリーズを楽しみにしていた。その時私はまだ小さくて、日本語の読み書きもできなかったがドラマから「こんにちは」という挨拶を聞き取って、いつか「おしん」の国に行って、「こんにちは」と挨拶したいなとずっとお母さんに言っていた。ドラマを見て、日本語、日本の文化に興味を持って日本語を勉強し始めた。大学2年生のとき私は留学試験に合格し、「おしん」の国に来ることが決まった。

ウズベキスタンの先輩が関西空港に着いた私を迎えに来てくださって、空港から先輩と一緒に和歌山へ来た。和歌山大学前駅を出てすぐ周りの緑に囲まれている山の美しい景色を見て、心が暖かい気持ちでいっぱいになった。そのときから私は自然の豊かな和歌山のことが好きになった。ウズベキスタンも山が多いけれど、和歌山のように緑に囲まれてはおらず、色は茶色だ。先輩は周りの山を見て「これからズライホさんのことを山の人と呼ぶよ。新しいニックネームを付けよ」と冗談を言っていた。今も大阪へ先輩に会いに行ったら、「山の人から降りてようこそいらっしゃいました」とジョークを交えた挨拶をする。



来たときはちょうど和歌山のみかんのシーズンだったので、おいしいみかんをいっぱい食べることができた。和歌山の人ばかりみかんをいっぱい食べるので、皮を早く剥ける特別な剥き方を教えていただいて、私もみかんのプロになった。

和歌山へ来てから最初に行ったところはもちろん和歌山城だ。和歌山城は市の中心部に位置しており、景観がとても美しい。以前留学生同士でのお花見を和歌山城公園で行ったが、そこからお城を眺めたとき、今までは映像や写真でしか見ることのなかった風景が実際に自分の目の前にあるような気がした、なんだが感動した。

ほかにも色々なところへ行っただが、私が和歌山県で一番好きなのは高野山だ。高野山に着いた瞬間心の平静を感じた。和歌山大学の友達が高野山の寺でインターンシップをやっていたので詳しく説明して、案内してくれた。そこで友達から NARUTO というアニメには仏教と神道の戦いがテーマとなっていて、筆者が高野山に来たとき NARUTO のアイデアが生まれたと聞いた。それが正しいかどうか分からなかったけれど NARUTO のファンであるウズベク人の友達にそのことを言うと、「もうその話は知っているよ」と言われた。寺のお坊さんに仏教について色々な面白い話をさせていただいて、仏教と神道はどう違うか、何を目指しているかが分かった。そして、高野山で一番驚いたのは「しろありやすらかにねむれ」と書いてあったありの墓だった。様々な会社の墓があるのにさえ驚いたが、シロアリの墓まであると思わなかったのが衝撃だった。

またそれ以上に印象に残っていることは和歌山市加太にある友ヶ島に行って自然の美しさを感じるとともに、地図で行きたいところを目指しながらハイキングをしてきたことだ。自然の美しさを感じた理由は友ヶ島に携帯がつかないことだ。現在の若者と同じように私も最近携帯依存症になっている。携帯を手から話さない、無意識に画面を触るようになっていたことに友ヶ島で気付いた。その時から本を読んだり、宿題をしたりするときは携帯を消しておくようにしている。

私は人形が大好きだ。ウズベキスタンで日本語弁論大会に参加して、第一位になったスピーチのタイトルも「人形」だった。だからルームメイトから数えられないぐらいの人形が和歌山市加太の淡嶋神社にあると聞いて、楽しみながら訪れた。その頃は2月の終わりごろで、ひな祭りが近づいているときだったので、神社には普通より2倍ぐらいの人形が飾っておいてあった。実際に数えられないほどの人形を見て感動したので思わず写真をたくさん撮ってしまった。それはいい思い出になった。



今まで和歌山城、高野山、加太などに行って、和歌山が自然にとっても富んでおり、緑に囲まれている山々が県内各地にたくさんあることを知った。和歌山にきて日本がもっと好きになった。また日本に来るチャンスがあったら是非和歌山に来て、和歌山で住みたい。